

MGI016-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

アジア寒冷圏データアーカイブプロジェクト

Asia Cryosphere Data Archive Project

矢吹 裕伯^{1*}, 大畑 哲夫¹

Hironori Yabuki^{1*}, Tetsuo Ohata¹

¹独立行政法人海洋研究開発機構

¹Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology

アジアユーラシア寒冷圏は地球気候システムの重要要素であり、氷河・凍土・積雪などの変動が近年注目されている。IPCC第4次報告でも数多くの記述、特に社会的影響に関する懸念が大きいとされている。現在世界的には雪氷データは、NCDCやNSIDC等のアメリカのデータセンターが中心となって世界的なデータの整備を進めているが、WMO等のようなデータに関する国際的組織がなく、国際的・組織的なデータアーカイブが非常に弱体であるため、現状把握、変動研究がままならないのが、実態である。

大気・陸・水圏は国境にかかわらず続いており、寒冷圏の変動に関しても、広域の寒冷圏に関する情報を国単位で閉じることなく、広い地域で共有することで、地域全体としての寒冷圏の変動の理解を行うことが、今後のアジアユーラシア寒冷圏のより良い理解のためには重要である。特にアジアユーラシア寒冷圏には複数の国が存在し、広域での雪氷圏変動の把握を行うためには国際的・組織的なデータマネージメントが必要とされている。またIPYやIGOS-Cryosphereなどでも、その必要性が指摘されている。GEOSSのデータアーカイブ機能、向上に役立つ。

本プロジェクトでは寒冷圏における地球環境変動の実態を明らかにするために、これまであまり公開が進んでいないデータのカatalog情報の収集・整備を進め、過去の観測およびそのデータの現状を明らかにするとともに、データのデジタル化を通して広くデータの公開を行うことを目的とする。

本プロジェクトでは日本国内のみならず、アジア寒冷圏を対象とした、観測研究のデータセットの受け皿およびそれらのデータを公開するシステムの構築・公開を進めるとともに、広く研究者等にデータカatalogおよびデータの提供を促すものである。

キーワード:寒冷圏,データ, Asia CliC

Keywords: Cryosphere, Data, Asia CliC